

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhvu_detail_2011_022_kani=true&JiyvosyoCd=4491100071-00&PrefCd=44&VersionCd=

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府舎番館1F		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地にありながら、季節の移り変わりを感じられる自然に恵まれた環境で散歩には最適です。利用者同士がお互いを理解し、認め合い楽しく共同生活ができるよう心がけています。また同法人の福祉農場安心家族で育てた有機野菜を調理に用いて、食を通して季節を感じていただいています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念である「笑・和・輪」を基に、グループホームの理念(目標)を作り上げ、それぞれの職員がケアの根っこに促して、日々利用者との時間を送っています。その人らしさ、自尊心を傷つけない言葉掛けや対応が来ているか、常に職員で話し合う中で、利用者、家族が「ここで過ごして良かった」と思う安心感を提供できるよう、日々の支援に真摯に取り組む姿が伺えます。また、地域密着型事業所として、地域のボランティア、職場体験の受け入れ等、地域の一員として交流できる機会を作ると共に、地域商店街での買い物や近隣の散歩等地域社会での生活基盤を作る努力をしています。今後も認知症ケア啓発活動等を通じ、地域福祉向上に寄与されることが大いに期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に沿った事業所の理念を昨年職員で提案し作り上げ、現在その理念をすべてのサービスの根本となるよう共有するよう努めている段階	昨年、管理者、職員全員で協議し、「笑顔で和やかに、皆で輪を作ろう」の理念を作成し、サービスの在り方として共有、実践に向け努力をしています。	職員は理念を念頭に、日々笑顔で接することを実践されていますが、皆で作成した理念を職員で共有認識することで、ケアの質の向上に活かせるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の清掃デーでは同法人事業所の職員のかも借りて事業所周辺の放置状態の土地の草刈りや近所で問題となる側溝の水溜りを担当するなど地域での役割を担うことで信頼を得る努力をしており、今後より交流を深めやすい土壌作りに努めている。	地域の行事に積極的に参加したり、ボランティアの方に来て頂いたり、交流に努めています。	地域密着型の意味を踏まえ、行事に参加するだけでなく、事業所の行事に招待する等、地域住民との交流の場を増やすことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記清掃デーで入所者に大きな役割はできなくとも道路わきの草取りや草刈り後の片づけなど参加してもらったり、日頃から落ち葉の清掃などを職員とともに行って、小さな仕事だが、近所の環境整備に関心があるよう近隣住民に見てもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施報告だけでなく事故報告等のマイナスと受けとられるような情報を公表し、事業所の対応や改善課題について話し合ったり、外出支援について市の担当者からアドバイスを受け、その後の施設の外出行事に活かしている。	毎回、参加される人数も多く、事業所活動報告や、頂いた意見を基に、サービスの向上に役立させています。	今後、職員も交替で参加することで、運営推進会議に関心を深め、サービスの質の確保、向上に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年9月に市の実地調査があり、課題や改善点についてその後の対応・取り組みを密に連絡を取って報告している。しかしこれらは経営者や管理者が窓口となっており、職員が日ごろのサービスについて市と連絡を取る体制作りはこれからである。	市担当者には、運営推進会議の時に、事務的なアドバイスや意見を頂いています。	今年度は担当職員(ケアマネジャー)の交替等があり、市との連携はこれからというところです。今後は、ケアの在り方や、サービスの取り組みなどを伝えながら、協力関係を築くことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在工事中で表玄関が使用できず、これまで施錠することが多かった裏出口を玄関代わりに使用している。意外に日中開錠しているが問題ないことに驚いている。身体拘束に関して理解を深める必要があると実感した。	ミーティングや日々の申し送りで、その日のケアを共有できるようにしています。身体拘束をしないケアについて、職員は理解し、実践に取り組んでいます。	職員は身体拘束について理解されていますが、定期的な研修で、より一層の理解を深めていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で行えなかったが、行政からの通達等は回覧している。虐待なきよう努めているが、適切でない言葉を利用者に使う職員もおり、今後研修等を早い段階で実施したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この点でも施設内研修がここまで及ばず、今後の取り組みにしたい。現在工事中の施設開園までに新任職員とともに勉強し、今後のサービスに活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご家族に時間をかけて丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情サービス委員会の案内や第3者委員の掲示、意見箱の設置などしている。	家族の方の面会時に意見や、要望を聞くようにしています。意見は申し送りノートに記載し、会議で管理者、職員で検討しサービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で職員それぞれの提案や意見を取りまとめ、職務分担や今後のサービスの実施方法などについて協議している。そのほかは年2回の職務評価制度の際の管理者との懇談で対話の機会を設けている。。	職員会議での提案や意見を反映させることにより、役割分担や責任感も芽生え、サービスの質の向上に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度の評価項目は各職種の職務内容が具体的に記されており、職員にわかりやすく努力しやすい内容になっている。ただし、認知症ケアという専門的なサービスに特化した項目に見直す必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として職員のコミュニケーション力を上げる必要があると感じ、法人内研修で自己啓発とコミュニケーションについて3回にわたり研修をした。認知症ケアに関する専門的な研修は施設外研修で機会あるごとに参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県老協在宅ケア委員会に加入しており、案内ある都度参加し、他施設の情報収集の貴重な場となっている。今年度施設間で職員交換研修の協議ができたが、実施には至らなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで利用者と家族とともに利用者の生い立ちから現在までを詳しく聞き取り、そのうえで利用者を深く理解するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のアセスメントでご家族から在宅生活での問題点や利用者への思い、事業所に望むことを時間をかけて聞かせてもらい、ご家族から信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じく詳しく在宅生活時や最近の問題点を理解したうえで医療サービスやリハビリなど必要なサービスがあればご家族に提案し利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況により差異はあるが、料理、洗濯などの家事、季節の行事用飾りの作成など、その人それぞれでできる作業を共同作業で行い、笑いあり、文句ありの家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者との関わりを深めるためにご家族のアドバイスは不可欠であり、私たちをサポートしていただいている。また、家族が来園する際には、利用者の様子を伝え、家族の思いを聞き取り、共に協力して支援している関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人の施設に同じ地区の方が来訪された時や法人役員が知り合いの場合は事業所に立ち寄って頂けるようお誘いしている。(利用者の自宅地域の方は先方がすでに入所中であることを知っておられる場合)	敬老会の方々の訪問や、ケアハウスにいた時の友人や職員の面会もあります。また、家族の方も積極的に馴染みの場所に連れ出す等、家族の協力の基、関係の継続支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人合わない人がいるが、職員が間に入り日常が平穏に進むよう調整している。気の合う人、同じ作業をする人、散歩が好きで屋外なら作業に付き添える人などその人に合わせてスムーズな関係を維持できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族が訪ねてくれたり、自宅で使用していた思い出の品を寄付して下さったりすることがあり、今後も必要とされれば相談や支援に応じるつもりでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態や安全面・衛生面が先行して細やかな配慮に欠けることもある。その場合本人本位に検討できないこともあるのが実情である。	本人や家族の方から、思いを聞いたり、日々の関わりの中で声掛けや、表情で思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のカンファレンス、ご本人との会話、ご家族からのお話により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録シートで各利用者ごとに24時間1週間分の状況把握と健康管理をしており、1シートで職員間で情報が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が協力し合い経過観察の情報をノートに書き留め、モニタリングに活かしている。経過観察の中で職員が気づいたことや見直しが必要な点など話し合い、次の介護計画に活かしている。	ケア会議で話し合い、本人、家族の要望や、職員の意見を参考に介護計画を作成しています。定期的な見直しや変化に応じて、新たな計画を立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の24時間1週間分1シートの介護記録シートを活用している。排泄パターンの把握や薬と行動の変化の様子、バイタルや入浴回数など多くの情報を読み取ることができ、モニタリング資料として欠かせない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するための環境を整える方が先行し、即対応できていないため今後の努力が必要だ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	東西別院のある四日市商店街の行事に積極的に参加、自治区内の桜の名所、藤棚で有名な茶畑に散歩を兼ねて出かけ、季節の移り変わりを感じて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及びご家族の負担とならないよう配慮し、希望を伺いながら往診を受けることのできる協力医療機関か、ご家族支援による在宅からのかかりつけ医かなど、適切な医療が受けられるよう援助している。市内であればご家族に代わって通院付き添いをする。	本人及び家族の希望する、かかりつけ医の受診を支援しており、月2回の往診も受けています。また、かかりつけ医の情報提供や相談対応等適切な医療提供や説明を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子で体調の変化がみられるとき、入浴時の身体観察で気になることがある時は看護師に報告し、必要時には往診または通院に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も家族や病院と密に連絡を取り、様態の把握に努め、退院した場合の対応を想定しておく。退院が近い知らせがあれば、病院に出向き、食事・排泄・夜間の様子など担当ナースから説明を受け、退院後もスムーズに日常生活に戻れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常時医療が必要になった場合は、家族と話し合い、できる限りその意向に沿うようにしている。家庭で看護・療養するのと同等の設備になるため、なるべくご家族に安心してもらえるよう看護師を配置している。	終末期の受け入れは、現在行っていないが、入所時に家族の意向を聞くようにしています。利用者の状態に応じ、緊急、急変時は病院や法人外の施設へ退所支援を行っています。	重度化及び終末期の対応について、具体的には決めていないが、全職員で、「事業所が出来る最大限のケア」について、話し合い、家族の希望も踏まえ、看取りまで支援する方針を決められる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の実践力は確信できないが、万が一に備えて外部研修または施設内研修で定期的に心肺蘇生法を学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年4回、うち2回は夜間訓練の想定を計画しているが、緊急対応などで中止になったこともある。今月のGH火災の事件から今月、来月続けて訓練を計画している。地域の協力体制は要請しており確認しているが、立地的な問題はあります。	昼夜想定避難訓練を実施されています。建物にはスプリンクラーも設置され、緊急通報設備も整っています。今後備蓄も法人で購入予定です。	今後も運営推進会議を活かして、消防団や地域住民の理解と協力を得ながら、災害時の対応について検討の継続と、地域住民と一緒に訓練を行う実践的な取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者を理解し、自尊心を傷つける事の無いよう心がけているが、日常のお世話の中で排泄のチェックをさせていただくときなどまだまだ改善が必要と感じる。	プライドを傷付けたくないよう、言葉遣いには気を付け、職員は感情的にならないよう、穏やかに対応することを心掛けています。	日常の言葉掛けや対応は、職員同士の気付きの中で、お互いに注意しあえる環境づくりに努めると共に、研修、会議等で勉強、確認することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけるようにしているが、今の利用者は自然に自ら表現できる人が多いようだ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿うようにしているが行事などに対応できる職員の人数により利用者に合わせてもらっていたこともあった。食事や入浴などは日常の動作の為、体調や気分により個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は清潔に、女性はご家族が預けてくれている衣類をTPOに合わせておしゃれを楽しんでいただいている。また、散髪の手配や毛染めパーマなど定期的にサービスを受けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特定の利用者になるが、調理に参加してくれるので皮むきや食材の下処理など座った姿勢でできる事を頼んでいる。慣れた手つきで行ってくれる。他の入居者は専ら食べる楽しみである。	法人の畑で育てた有機野菜を利用した、季節感のある食材が食卓に上がっています。献立も利用者の好みを聞き、職員が調理する中で栄養、摂取量も考慮されたものになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録シートを活用し、確実に実施できるよう努めている。食事の栄養については、現在事業所職員で献立をしているため、栄養士が管理していた時に比べ、料理本からの情報程度になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	先ずご本人にお任せし、磨き足りない部分を職員が援助するようにしている。自発的に歯を磨くことはなくても声掛けすれば自分流でも行ってくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	無理強いない程度の声掛けに努めており、全員が夜間も自力でトイレにて排泄してくれる。一部の方が尿取りパッドの取替えを行っている。	排泄の自立支援は特に重視し、排泄パターンの把握や、誘導に努め出来るだけ、トイレにて排泄するよう支援をしています。また、対応時の羞恥心や不安の軽減にも配慮をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず軽い運動や水分補給で排便を促している。今後は玄米食や腹部マッサージも取り入れていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々のスケジュールで午後に入浴をする流れを作っており、入居者の希望に合わせていると言えない。週3回以上の入浴を実施しているが、人により毎日希望する場合は対応してきた。	週3回、午後の時間を中心に入浴できるよう声掛けを行っています。拒否をされる方には声掛けの工夫で間隔が空かないように清潔保持に努めると共に、同姓介助の話し合いも行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活パターンを受入れ、日中休む方には睡眠の妨げにならないよう心がけている。しかし夜眠れないことのないよう一定時間で起こすなど良質の昼寝になるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を職員が共有できるよう薬情のみのファイルでコピー保管し、全利用者の薬についての情報をわかりやすくしている。また、薬の変更や副作用等の留意点についてドクターより指示を受けた場合は業務日誌に特記で記入する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特に役割は決めていないが、一人ひとりにできる家事をお勧めしたり、レクを行い楽しい気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により外出をすることは基本していないが、帰宅願望等で主張されるときは職員配置の許す限り施設周辺に職員付添いのもと出かける。地域の行事や季節を感じられる外出行事を月2回は実施している。	利用者自らが、外出先を希望することは少ないが、日常の思いの把握の中で、習慣や希望を外出支援に取り入れています。また、天気の良い時はホーム周辺を散歩する等、気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より5,000円程度の現金を預かり、外出行事の際のおやつや買い物の為に1,000円ほど各自に持参してもらい、ご自分で支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	去年は家族に手紙を書いたり、年賀状を書いて送ったが、今年は実施できなかったため、今後はまた復活させたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地のいい環境を整えているが、各利用者の自宅とはイメージがかけ離れているようだ。事業所としては、お日様を浴びて暮らしてほしいので窓を多めにとり、庭では日向ぼっこができるようにしている。	ホールは自然採光で明るく、梅の花が生けられ、職員と共に作成した壁飾り(ひな人形)が季節感をかもし出しています。利用者一人ひとりのホール内での居場所が決まっており、それぞれ仲良しとの談笑が見られ、居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ワンホールのリビングダイニングの為、利用者が一人になれるのは居室となる。リビングのソファか食卓か座った場所により気の合った者同士で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に使い慣れたものや時計など壁にかけて頂いてよいとお勧めしているが、施設が新しいため未だ遠慮されているようだ。入居時に家具の持ち込みもできると伝えているが、現在の入居者は施設で用意した家具を使用したいという希望である。	自宅での使い馴れた家具や、馴染みの物の持ち込みを働きかけています。居室は掃除も行き届き、利用者の趣味で作成した置物や写真を飾り、その人らしく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンホールのリビングダイニングの為、利用者の状況を確認しやすい。レクの提供で意外な特技を発見できることもある。家事などは安全に行えるよう見守りを欠かさず、同じ目線で作業するよう心がけている。		